

平成29年12月定例会 一般質問

市政を問う

今定例会では12月7日、8日に一般質問が行われ、15人の議員が質問に立ちました。その主な内容を、紙面の都合上、1人2項目以内に要約して掲載しました。掲載事項は、発言議員本人からの寄稿によるものです。

詳細な内容は、会議録を製本の後、三原市議会事務局、市役所情報公開コーナー、三原市中央図書館に置いています。また、三原市ホームページでも閲覧できますのでご覧ください。(会議録の製本には、議会終了後おおむね3カ月を要します。)

HPアドレス <http://www.city.mihara.hiroshima.jp> → 市議会 → 会議録検索
映像ライブラリー



みはら歴史館

問 平成30年度からの「観光のまち三原」に向けた今後の取り組みについて、築城450年事業を終え、成果と課題をどう生かしていくか。観光案内、トイレや駐車場、宿泊、遠方や海外からの受け入れ体制の整備、三原食の提供の仕組みや、「お寺の学校」な

答 市民や、企業事業所のご支援ご協力により築城450年事業のメイン期間を成功裏に終えることができた。本事業の目標数値として、観光客数450万

問 「観光のまち三原」実現の取り組みについて観光客数、観光消費額はどのような状況か。三原歴史館の来館者の感想などはどうか。

答 人、観光消費額100億円を掲げば目標数値を達成できると考えている。みはら歴史館は11月末までに5万2227人が来館し、市内44%、市外56%で、「三原の歴史が学べて楽しい思い出になった」「毎回ミニ企画展を楽しみに来館している」「歴史館を継続運営してほしい」など高い評価を得ている。

瀬戸内三原築城450年事業について



陶 範昭議員
すえ のりあき

ど市民や地域が企画実行した事業は新たな観光資源となるが、継続への支援など今後どう取り組むか。

■その他の質問事項
●有害鳥獣対策(鹿・熊等の対策)について



たかき たけこ
高木 武子 議員

都市公園と街路の樹木の点検と 剪定事業について

問 樹木の点検はどういう方法でいつ誰が行っているのか問う。

答 市管理樹木等点検実施要項に基づき、10月下旬をめどに職員が打音検査等の点検をしている。異常を確認した樹木については、造園業者へ再点検を依頼し、必要な措置をとっている。

問 剪定時期の目安と何本ぐらいを市が剪定しているのか問う。

答 市が管理している街路樹のうち高木は約1500本あり、剪定作業は樹木の生育状況や道路交通への影響、市民からの要望に基づき実施している。平成29年度は約1000本の剪定を行う予定としている。

問 都市公園の管理委託料と街路樹管理委託料における維持管理内容について問う。



街路樹の剪定

答 公園の植栽木の委託料は、都市公園93力所の剪定や防除・施肥の作業、宮浦公園では灌水や芝刈り作業。街路樹管理委託料は、都市公園と同様に剪定や防除・施肥等の作業を委託している。

問 街路樹の鳥の巣や糞対策について問う。

答 落葉樹については、冬期を中心に行っているが、鳥の巣の被害が発生している箇所については、剪定時期を早めるなどの対策を行っている。

学校給食のあり方について

問 米粉を使用したパンを学校給食として使うことはできないのか。

答 米粉パンの学校給食の提供については、単価や製造技術に課題はあったが、今後積極的に導入したい。

問 給食費の値上げについて、どういう方法で説明が行われるのか。

答 全保護者へ値上げの趣旨について、説明書を配布して周知をする。

問 説明書を配布したただけで周知できるとするのは、考え方が甘いのではないか。

答 意見や質問への対応は、理解をしていただけよう努める。

問 給食費の公会計に伴う人員配置はあるか。

答 公会計化は、学校給食開始以来初めて取り扱い制度を変更するので、移行に当たっては混乱を招かないよう執行体制を整える。

一 般 質 問

三原市のシティプロモーション 組織の編制と活動について



たなか ひろき
田中 裕規 議員

問 選ばれる自治体を目指すために、シティプロモーション（自治体の営業活動）について本市の考えを問う。

答 シティプロモーションは都市の売り込みであり、「知ってもらい、来てもらい、住んでもらう」ための情報発信と考える。

問 本市には縦割りではなく、組織横断的な新たな営業活動のための組織編制が必要では。

答 組織横断的に活動できる柔軟な体制を編制することは重要であり、検討していく。

待機児童の状況と 保育所について

問 本市の待機児童数と未入所児童数の状況とその対応は。

答 国の基準では待機児童数はゼロであるが、希望の保育所等に入所できていない未入所児童数は11月1日現在81人で、その内77人が3歳未満児である。

問 市は観光を柱として活動を行い、人口減少に歯止めをかけ、地域経済の活性化を図っていく考えか。

答 まずは、本市を知ってもらうために築城45

ある。

この未入所児童解消に向けた取り組みとして、平成27、29年度を計画期間とする第2期幼稚園・保育所等適正配置実施計画で、こども園2カ所、小規模保育所3カ所、事業所内保育事業所を1カ所整備した。

問 保育施設老朽化への対応と、今後の運営方針は。

答 私立保育所等との役割分担等を検討した上で、30年度までに第3期実施計画を策定し、継続、廃止などの方向性を決定する。



長谷保育所

●その他の質問事項
空き公共施設の活用について



新元 しんもと

昭議員 あきら

瀬戸内三原450年事業の検証について

問 事業目標に対する達成状況とその成果と課題について問う。

答 推進会議で議論を重ね、観光客数450万人、観光消費額100億円を目標値として取り組み、詳細は平成30年7月に公表される予定であるが、目標はほぼ達成できるものと考えている。新たな観光名所の創出や、やささだるマンのゆるキャラグランプリ2017での県内一位など、本



三原城跡天主台跡

づくり支援事業モデル地区に本町西国街道の指定など観光の追い風としてどうか。
答 天主台への案内方法は、現在JＲと連携し新たな整備に取り

組んでいる。西国街道については今後二か年で地域資源を生かした魅力あるまちづくり指針やルールづくりを行う。

子育てしやすい環境の整備について

問 結婚、妊娠、出産、子育てなど切れ目のない支援の取り組み状況や、その成果と課題について問う。

答 子育て世代包括支援センター「すくすく」の運営、個別相談・訪問等の母子保健活動の強化、放課後児童クラブ増設による待機児童の解消、幼稚園・保育所等適正配置実施計画等に沿った整備による未入所児童の解消に取り組む。

また、縁結びサポート事業については、奨励制度の新設などにより、サポーターの養成と活用で結婚成立という目標達成に引き続き取り組む。

■その他の質問事項
●安心して暮らせるまちづくりについて

一般質問



岡 おか

富雄議員 とみお

これからの高齢社会に対する対応について

問 団塊の世代が75才以上になる2025年からの超高齢者社会の問題解決に向けて、敬老会・住民主体による通所サービス等を含めた行政・医療・介護・地域が一体となった包括的な対応がより重要になってくると思うが本市の考えを聞く。

答 本市では、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく暮らし続けていくように、地域包括ケアシステムの構築を進めているが、認知症の方の増加や一人暮らし高齢者の孤独死の問題など、数多くの課題が発生している。課題解決のためには相談への対応・認知症対策・見守り体制の充実・強化が必要であると考えている。

住民主体による通所サービスについては、現在どの団体においても実

と思うが本市の考えを聞く。
答 久井地域には、久井認定こども園内に地域子育て支援センターを設置し、育児不安等の相談・指導、子育てサークル等の育成支援、地域の保育情報提供、未就学児や保護者への支援を行っており、様々な遊具も設置しているが利用しにくいという意見もある。

敬老会については、全体的に出席者は少ないが高齢者施策全体の中で、他事業とのバランスを考えながら事業を継続して行きたいと考えている。

子育てしやすい環境の整備について

問 久井地域には、子ども連れで子ども達を遊ばせながら、気軽に悩みなどを話せる場所が無いので、くい文化センター付近に作ってほしいと言う子育て世代の声が多くある。

楽しく子育てできる環境があれば、将来的に少子化対策の一助になる



地域子育て支援センター

本市としても、子ども連れで遊具等があり、悩み等を話し合える環境の充実、少子化対策の一つとして重要であると認識している。くい文化センター周辺での子育て世代の居場所づくりの意見も参考にする。



萩 由美子 議員

瀬戸内三原築城450年事業を終えて

問 議会で採択した「歴史と文化を大切にしまちづくりを推進する都市みはら」宣言をふまえて

①この事業はどうだったか。市民活動を今後につなげていき、新しい活動を

を生み出すためにどのように後押しするのか。②見えてきた課題は何か。

③これからまちづくりに取り組む姿勢を問う。隆景公関連の市町との交流を促進してはどうか。

答 ①事業の目標数値は達成の見込みである。市民が三原の歴史・文化を深く知り、三原を愛する気持ちの高まりに結びついた。市民活動の自主自立が可能になるよう、効果的な支援を検討する。②インバウンドへの対応とおもてなしの向上等が課題である。③議会の宣言が事業の追い風になった。本市の歴史的・文化的遺産を次世代に引き継

「LINE」を使った子育て支援について

いしていく。福岡市・宗像市等との交流も検討していく。

問 若い子育て世代の一番身近で使いやすい通信

手段は無料通信サービスLINEである。三原市子育て包括支援センター

すくすくの開所時間にかかわらず、子育ての不安を気軽に相談できるように、LINEを使っ

て子育ての相談に乗るサービスを行って

はどうか。

答 LINEは身近なツールになってい

る。「すくすく相談メー

ル」を開設したところ

ある。

問 実施した自治体では

多くの相談が寄せられて

いる。子育ての不安やし

んどさを抱える市民の受け皿になりうると考える

がどうか。

「すくすく相談メール」

周知にQRコードを使っ

てはどうか。

答 先行自治体の情報を

収集し検討する。

■その他の質問事項

●骨髄ドナーが提供手術

を受ける際の助成につ

いて

一 般 質 問

問 近年、消防・防災を

取り巻く環境では、地

震、台風、局地的な豪雨

など自然災害の脅威が増

し、それに伴って、災害

対応力の向上や危機管理

体制の強化が重要な課題

となっている。

問 消防庁舎が完成し、次

の消防拠点整備は、どの

ような計画か問う。

答 安心して快適・安全

に住み続けられるまちに

掲げる「消防・救急体制

の整備」として、消防力

整備計画を平成27年2月

に31年度末までの5か年

計画を策定した。大規模

災害に備えて、耐震性に

課題のある庁舎や老朽化

した署所の建替え、改修

等、32年度以降の消防拠

点施設の整備に当たっ

て、今年度から課題の整

理を行い、消防力の適正

配置を見据えた計画の見

直しに取り掛かる。

消防力整備計画の今後の方向性

について

問 建築後36年も経過し

ている「西部分署大和出

張所」は、老朽化と耐震

性にも課題がある。喫緊

の課題として整備しない

のかを問う。

答 消防施設は住民の生

命、身体、財産を災害か

ら守るという強固な建物

である必要がある。

現施設は、旧耐震基準下

における建築物で、耐震

性に課題を抱えており、

喫緊に対応していかなければならないと捉えてい

る。

今後、消防庁舎全体を

考え、消防拠点施設の整

備方針を示す新たな計画

の中で、課題解決に向け

対応していく。

老朽化した西部分署大和出張所

9